

平成29年度  
**事業報告書**

平成29年4月 1日から  
平成30年3月31日まで

公益財団法人  
**タカミヤ・マリバー環境保護財団**

## 概 況

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団は、平成23年6月10日に新公益法人としての認可を受けて以降、7回目の決算期を迎えました。

新公益法人の定款では、事業目的をよりわかりやすく、現実的な表現に改めておりますが、財団としての理念は、財団設立当時の寄付行為と基本的内容は大きく変わったところはなく、より公益性、公平性に水辺の環境に特化した公益財団として実践してまいりました。公益財団7年目の29年度も福岡県より認定を受けました下記、5事業を計画通り実施致しました。

### 公益目的事業

- I. 河川・海岸の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営

### I. 河川・海岸線の美化推進事業

#### 1. 市民参加による水辺環境美化事業

29年度は、財団主催、及び共催により、地域住民や小学校児童など、一般市民も参加しての河川・海岸線美化清掃事業を13回実施しました。

内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心とした年間7回の河川清掃活動。

小倉日明海岸、門司海岸、若松響灘海岸を中心とした6回の海岸線の美化清掃活動を実施しました。

#### 2. マリバー1号による事業

マリバー1号は2トンパッカー式塵芥収集車で街宣設備を有し、乗務員1名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線での、市民への環境美化の呼び掛け運動、及び乗務員による清掃、ゴミ収集及び処理並に広大な北九州市内海岸部に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を続け、土・日祭日等にはマリバー2号とともに、河川愛護団体等の行う美化推進活動の支援、水辺環境美化への啓発を行いました。

平成29年4月1日から平成30年3月31日にかけて実施致しました内

容は次のとおりです。

① 事業実施期間

平成29年4月1日（土）～平成30年3月31日（土）

② 実施地域（マリバー1号巡回地域）

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 太刀浦エリア
- キ. 門司港・和布刈エリア
- ク. 新門司北エリア

③ 事業内容

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 水辺環境愛護団体等支援

④ 活動状況

(1) 北九州市内の海岸線パトロール

マリバー1号（中型収集車）により、北九州市域内の海岸線を巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

各エリアにつき月／2回から4回程度の巡回を行うことを、計画・実施いたしました。

(2) ゴミ不法投棄監視・海岸線護岸等の破損の監視

巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び海岸線護岸の破損事故の監視、通報を行いました。

(3) 水辺愛護団体等支援

下記の通り、水辺愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成29年	4月15日	紫川アユ放流祭
平成29年	7月30日	若松区響灘 大清掃
平成29年	9月10日	脇田釣り栈橋 漁港 清掃
平成29年	9月 3日	八幡東区大蔵川 清掃
平成29年	10月 1日	若松区響灘 大清掃

平成29年 10月 1日 八幡西区金山川 大清掃  
平成29年 10月 7日 小倉南北 紫川 大清掃  
平成29年 11月 5日 小倉北区紫川ハゼ釣大会 大清掃

#### ⑤ 成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただき、多くの協力を得られるまでになっています。

#### 3. マリバー2号による事業

マリバー2号は北九州市内の中小河川の巡回が主になる為、軽ダンプ式塵芥収集車により、街宣設備を使用し、乗務員2名にて、毎週5日、毎月2回の頻度で北九州市建設局の管理する市内49河川の巡回により、市民への環境美化の呼びかけ、乗務員による清掃ゴミ収集及び不法投棄、護岸施設等の損壊の確認・通報を行いました。

平成29年4月1日から平成30年3月31日にかけて実施致しました内容は次の通りです。

##### ① 実施期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

##### ② 実施地域

北九州市内河川流域

1 城内川 2 砂津川 3 神嶽川 4 紫川① 5 紫川② 6 小熊野川  
7 長行山田川 8 紫川③ 9 立花川 10 井手浦川 11 母原川 12 茶屋川  
13 志井川 14 村中川 15 大川 16 羽山川 17 清滝川 18 奥畑川  
19 櫛毛川 20 相割川 21 竹馬川 22 朽網川 23 貫川 24 大野川  
25 田原川 26 長野川 27 板櫃川 28 天籟寺川 29 撥川 30 割子川  
31 建郷川 32 中子川 33 金山川 34 新延川 35 白木川 36 金剛川  
37 笹尾川 38 新々堀川 39 金手川 40 江川 41 坂井川 42 寺田川  
43 原田川 44 相川 45 熊本川



る団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成29年	4月15日	紫川アユ放流祭
平成29年	6月2日	戸畑区天籟寺川清掃
平成29年	9月2日	八幡東区大蔵川 清掃
平成29年	10月1日	八幡西区金山川 大清掃
平成29年	10月9日	小倉南北 紫川 大清掃
平成29年	11月5日	小倉北区紫川ハゼ釣大会 大清掃

#### ⑤ 成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただけるまでになっており、多くの協力を得られるまでになっています。又北九州市の水環境課との連携により、北九州市の河川環境の向上に寄与しております。

## II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護 ・増殖事業

この事業は、紫川の生態系の研究、アユの研究・保護、北九州市内でのメダカ・ホタルの保護及び、北九州市周辺海域の水産資源保護・育成を行う事業です。北九州市の豊富な自然環境の象徴として、小倉南区・小倉北区を流れ、響灘に注ぐ紫川があります。この川は、田園部と都市中心部を縦断しており生態系を考える上でも重要な価値があります。その中で、仔アユ放流につきましては、28年度も例年通り実施しました。

地元住民や小学生など多くの市民参加によって開催され、今では地域の環境保全のシンボルとして位置付けられています。また、アユは最も象徴的な指標です。当財団は過去長きにわたり紫川において、降下・遡上の状況について調査を行って参りましたが、29年度は、遡上の状況について調査を中心におこないました。

### 1. アユの生態研究・保護・育成事業

4月に恒例となっております「紫川アユ放流祭」を多数の市民のご協力のもと行い、福岡県より、ご協力頂いた福岡県産の仔アユ1万尾を放流しました。昨年度は、紫川井堰（新日鉄取水堰）において、日本大学理工学部土木工学科安田陽一教授（以下、安田先生と称す）の指導のもと、「遡上しやすい魚道づくり」を目的に「石組」による魚道改良を行ないましたので、今年度は、その

効果を把握するため、アユの遡上状況調査を実施いたしました。

一方、伊崎井堰では、増水等により堰下へ流された放流稚アユが、再遡上できずに堰下に集まっている状況にあることから、北九州市は魚類が遡上しやすい環境を整備するため、安田先生指導のもと「石組みによる魚道づくり」を計画、この事業の協力も実施しました。

紫川におけるアユの遡上は、例年3月末頃に初認され、6月下旬頃まで遡上します。遡上のピークは4月下旬から5月下旬頃までであり、この期間中に週2回の頻度で計10回の遡上調査を実施しました。

時期：4月24日～5月25日（遡上のピーク時期を対象）

※初回調査は4/17日に予定していたが豪雨となり延期。その後、堰は転倒されたままで調査できる水位になかったため、調査開始を4/24日に延期。

場所：紫川井堰（新日鐵取水堰）【右岸側魚道の最上部】

方法：2回/週の頻度で、目視によるアユ遡上数の個体数計測

回数：合計10回（週2回の頻度：降雨・増水時は調査日を延期）

時間：8:00～18:00（1時間ごとに正時から30分まで連続観察）

図

## 2-1 作業状況（アユの遡上調査）



図 2-1 豪雨後の可動堰の状況（開放により魚道への流入がなくなる）

## アユ遡上調査の結果

### 1) アユの遡上数

アユ遡上調査の結果を表 3-1 に、遡上数の推移を図 3-1 に示しております。

調査日 時間	アユ遡上数（日換算）									
	第1回 4/24	第2回 4/27	第3回 5/1	第4回 5/4	第5回 5/8	第6回 5/11	第7回 5/15	第8回 5/18	第9回 5/22	第10回 5/25
8:00～9:00	0	0	0	8	4	0	0	4	6	0
9:00～10:00	0	14	2	2	0	30	0	4	32	6
10:00～11:00	0	76	4	0	4	32	0	2	4	24
11:00～12:00	0	86	0	0	2	4	20	12	6	26
12:00～13:00	0	56	36	2	16	2	10	2	6	20
13:00～14:00	10	16	190	6	6	14	6	6	0	14
14:00～15:00	22	4	70	4	6	10	22	4	2	2
15:00～16:00	12	10	36	16	4	0	10	4	100	4
16:00～17:00	120	26	4	66	0	2	18	2	2	4
17:00～18:00	10	18	6	14	2	4	4	12	10	8
合計	174	306	348	118	44	98	90	52	168	108

潮時	中潮	大潮	中潮	小潮	中潮	大潮	中潮	小潮	中潮	大潮
満潮時刻	8:17	10:15	12:36	16:43	8:09	9:36	11:26	13:38	6:47	8:58
干潮時刻	14:17	16:33	6:26	10:14	14:25	16:09	18:15	7:38	12:58	15:31

※当初予定していた4/17は降雨による増水、4/20は増水後の堰開放により調査を延期。

※表中の赤字は、調査日の遡上個体数のピークを示す。

調査期間中（全 10 回）に遡上した稚アユ数は 44～348 個体/日の範囲でした。遡上数は調査期間の前半に集中する傾向がみられ、4 月末から 5 月上旬に多い傾向でありました。調査日別の遡上個体数が最も多い時間帯（赤字）は不規則で、一定の傾向はみられなかった。しかし、遡上個体数には明らかにピークがみられ、遡上はある程度の個体群にて遡上する傾向がうかがえました。

## 2. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源の枯渇を食止め、保護・増殖に努めました。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流いたしました。



### Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして盛り上げていこうという事業です。このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや、事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただく助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“マリバーエイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます。）を対象としております。今年度も57団体、58事業に対し助成を行いました。

#### 平成29年度分類別助成事業

- ① 河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業
  - (1) 河川 北九州市内の河川（主として紫川）
  - (2) 区間 北九州市内域の全区間
  - (3) 助成団体 18団体
  - (4) 合計助成金額 2,390,000円
- ② 水辺の自然と青少年とのふれあい事業
  - (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
  - (2) 助成団体 14団体
  - (3) 合計助成金額 1,596,796円
- ③ 水生生物の生態研究並びに保護・育成事業
  - (1) 習性研究・遡上数調査
  - (2) アユの保護・メダカ・ホタル飼育
  - (3) 助成団体 13団体
  - (4) 合計助成金額 1,420,000円
- ④ 河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業
  - (1) 北九州市内の稚魚放流（主として黒鯛・カサコなど）
  - (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
  - (3) 助成団体 2団体
  - (4) 合計助成金額 100,000円

⑤ その他

- (1) 環境教育事業
- (2) 海岸線緑化他
- (3) 助成団体            12 団体
- (4) 合計助成金額        1, 715, 361 円

総合計    57 団体    58 事業  
              7, 222, 157 円

#### IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の自然と青少年とのふれあいに 関するシンポジウム・環境教育

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

##### 1. シンポジウム

- ◇日時：平成29年11月18日（土）    9:30～12:00
- ◇場所：北九州市立商工貿易会館
- ◇参加：約300名
- ◇行程

- ① 開会
- ② 財団役員あいさつ、北九州市北橋市長あいさつ
- ③ 助成先紹介、マリバー大賞発表並びに大賞団体報告、魚道改良報告
- ④ 自然界の報道写真家 宮崎 学 氏  
「動物たちのびっくり事件簿 ～間違いだらけの自然保護～」

当日は、商工貿易会館ほぼ満員の300名近い市民が来場し、まず、財団の挨拶の後、北九州市の北橋市長にご挨拶を頂きました。

続いて、財団助成金制度・マリバーエイド（約60団体、）を受けている団体の活動紹介をスライドで行いました。

その後、助成先の中で、その活動内容が顕著であると認められた団体にマリバー環境大賞が授与された。本年は、長年に亘り、北九州市内の様々な河川の調査や市内の小中学校等での自然体験教室を数多く開催された「川を観る会」が受賞され、崎野代表より活動の発表が行われました。

併せて、本年10月、昨年のシンポジウムでもお話を頂いた安田陽一日本大

学教授が紫川桜橋の魚道改良事業を行われたので、その事業について「川塾」の内村代表より、魚道改良についての報告が行われました。

その後の特別講演では、「自然界の報道写真家 宮崎学 氏」をお招きし、自然と人間をテーマに『動物たちのびっくり事件簿 ～間違いだらけの自然保護～』と題してお話を頂きました。

講演は、宮崎氏が、赤外線センサーとカメラを組み合わせた自作の無人撮影装置で撮影された、水辺に集まる野生動物の生態写真を中心に、数多くの動物や人と動物のかかわりの写真を説明しながら進められました。

近年、日本においては、里山の衰退と共に野生動物が激増しております。ツキノワグマも年々写真に写る数が激増しており、間違いなく野生の生息数も増加しているとのことであります。又人間や人工物の恩恵を受けて共生する野性動物も、都会に適合して人間生活の側で暮らしており、人間の普段の行動が野生動物に多くの影響を与えている事、そして人間も河川や湖沼等自然界の中の一部で、共存が大切であることをお話いただきました。

今回の講演は、身近な自然を様々な角度から見ることで、水辺を求めて来る動物たちの姿も姿形を変えて見えること、又、起こっている事象を、様々な角度から観る大切さも教わった素晴らしい講演でした。

来場者からは、シンポジウム全体を通して、満足した、大変参考になったという声を多く頂いた。現場で撮影された写真等をふんだんに使いながら分かりやすい説明をいただいたことは、参加した環境保護等に関わる人たちにとっても有益であったと思われまます。

当財団では、今後も水辺環境保護への意識を向上させていく為に、このようなシンポジウムを続けてまいります。

## 2. 環境教育

### ① 今町小学校自然体験教室

「ふるさとの川・紫川を守ろう」

日時 7月16日(土)、17日(日)

### ② 大蔵小学校自然体験教室

「大蔵川の水生生物」

日時 9月3日(土)

大蔵小学校と協力をして「大蔵川環境教育」この事業は、授業の一環として、大蔵小学校の1～6年生の全校児童が参加し、環境教育と地元を流れる大蔵川の清掃を行うイベントです。

川の清掃の前、大蔵小学校の児童に、環境ミュージアムのプログラムで環境について学んで頂きました。

## V. 北九州市環境ミュージアムの運営

### 1、来館状況

総来館者数は、平成 29 年度は 135,008 人で前年比 103% (平成 28 年度 131,690 名) と昨年を上回る結果となり、団体については平成 29 年度 460 件で前年比 106% (平成 28 年度 434 件) と、上回る結果となりました。これらについて考察すると、一般来館者への集客は毎年恒例の「未来ホタルデー」や「ちょいエコホリデー」、夏休み企画等の安定した集客と、エコライフ講座やエコクッキング、その他毎月実施している多様なワークショップや、地域と連携した「東田サマースクール」や「世界一行きたい科学広場」を実施した成果が表れたものと考えられます。団体数の増加については市内外問わず、一般団体の来館の利用が多く、地域の団体や研修グループなどの利用が多く、また、スペースワールドの閉園による駆け込み需要も来館者増加の要因となっているため、来期に向けて、閉園したスペースワールドの影響を考慮しつつ、他施設と連携して集客に努めたいと考えています。

### 2、自主事業

例年通り「未来ホタルデー」を開催しました。市民団体の活動紹介をはじめ、エコ工作体験、環境科学実験など、様々なイベントを実施した結果、11,007 名が来場し大変なにぎわいとなりました。また、「ちょいエコホリデー」と題して、8 月に「ちょいエコウィーク」として夏休みの宿題お助け企画を実施、12 月には幼児を対象とした「ちびっこちょいエコ」、3 月はくらしをテーマとした「くらしちょいエコ」行い、合計 4,405 名の方が来館されました。今後も継続して実施し、市民活動の拠点となれるよう努めていきます。その他にも季節に応じて企画した、夏休み宿題企画やクリスマス、バレンタインなどのイベントやエコライフ・E S D の啓発として石鹸づくりや染物講座、料理教室、エコ工作、科学実験、ドキュメンタリー映画の上映、など、さまざまな視点から環境について考えることができるイベントを実施しました。

### 3、地域との連携

当館を含めた東田地域にある 3 つの博物館（北九州市環境ミュージアム、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリー）を連携させた恒例イベント「東田サマースクール」「世界一行きたい科学広場 2017in 北九州」を実施しました。「東田サマースクール」は夏休みの小学校 4 年生以上の児童を対象に 4 日単位で、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリーと当館の 3 つの施設で連携し、各館が 1 日ずつ担当して特色あるプログラムを実施しました。当館では、館内見学をはじめ、地球の道体験、夏休みの宿題向けとし

たエコ工作や環境3択クイズなどを実施し、参加者から大変よい評価を頂きました。「世界一行きたい科学広場 2017in 北九州」では3館とSSH指定校、九州工業大学や北九州高専らと協同で実施し、本物の科学にふれる機会とその楽しさを伝えることができました。当館は、水を使ったおもしろ実験や、発電カーレース、電気パンなど夏休みの自由研究のヒントになる実験を行いました。また、地域のまちづくりとして八幡まちづくり連絡協議会へ参加、地域の美化活動として毎年恒例の「社長公認堂々ごみ拾い」「夏の交流会」などに参加、その他、当館が発起人である東田3館周辺を毎月第3水曜日に自主的に清掃する「5分間清掃」や八幡東区まつり起業祭の一環として行われる「八幡東田ウルトラ 25時間駅伝」への協賛や地域住民が開催する、町内会や茶話会への協力を行いました。また、地域イベントとして定着している、スポーツと自然との共生をテーマにした「北九州・平尾台トレイルランニングレース」や手作りをテーマにした「手作り市場 in 北九州」、八幡東区河内地区竹林の保全活動を行う「北九州里山トラスト会議」への運営協力や、エコライフステージへの出張展示等を行いました。

#### 4、利用促進・サービスの質向上

##### ①オーダーメイドのプログラム提供

受け入れ団体については市内外問わず、綿密な打ち合わせを行い、先方のオーダーに合わせた環境学習プログラムの提供を行いました。また、継続実施している、教育委員会主催の環境アクティブラーニングの受け入れや、環境修学旅行、環境局主催の古紙リサイクルバスツアーやプラスチックリサイクルバスツアー、行政視察など関係部署との連携を図り、円滑な対応を行いました。そのほか、環境学習コンシェルジュとして環境学習における様々な問い合わせに対応を行い、個人・団体に関わらず、これまで蓄積したノウハウをもって北九州市内の環境学習相談や具体的な学習ツアーの提案を行いました。さらに「ドコエコツアー2017 公害の街から環境未来都市へ」と題し市内小学校での社会科について研究を行っている教員向けに企画。環境ミュージアムの見学をはじめ、市庁舎10階にある公害監視センターの視察や公害のために閉校となった城山小学校跡地を同小学校OBの方と共に話を聞きながら見学するなどしたオリジナルツアーを実施しました。

##### ②新たな施設利用

新たな試みとして環境ミュージアム主催で絵画コンクールを実施し、応募作品の展覧会を第5ゾーンにて実施しました。また、ドームシアターでの演劇講演やプラネタリウムの実施など、映像を上映する以外にも効果的に使用し

ました。その他、第4ゾーンにて市内企業との共同企画展示を制作を行い、第1弾として九州製紙(株)を紹介し、今後も環境へ配慮する市内優良企業の展示を実施していく予定です。

#### 5、ガイドの育成

ガイドの育成として、北九州市における市民環境力の向上に寄与できるよう、様々な視点で研修を行いました。本市の環境への取り組みとして最新である城野ゼロカーボン先進街区ボン・ジョーノや北九州エコタウン・次世代エネルギーパークとの相互連携の維持として双方の視察を実施しました。その他、専門知識を有する職員が他の職員への情報共有を行うことで精錬された業務の遂行と効率化を図るとともに、その知識を共有し、専門でない分野についての知識向上を行いました。また、OJTとして北九州里山トラスト会議との協働で、放置竹林の整備について、現場での活動と通してその重要性を学びました。また、館のバリアフリー対応として、手話奉仕員養成講座に参加し、これを修了しています。

#### 6、維持管理、安全管理、その他

重大な館内事故・事件等の発生はありませんでした。その他、スタッフによる日常点検、定期点検等を行い、安心・安全な運営を行いました。また、避難訓練や救命救急講習を実施し、有事の際に対応できるよう訓練を実施しました。その他、設備の老朽化が顕著になってきており、不具合が多くなっているため、迅速な状況把握と対応を行えるよう努めております。

## 7、事業の内容と進捗状況

事業計画の内容	進捗状況
<p>① ちょいエコホリデー 未来ホタルデーを兼ねて1回、ちょいエコホリデーとして年 3 回実施します。</p> <p>② エコ料理講座 大人、親子など、対象を変えて毎月実施します。</p> <p>③ 3R促進関連講座 有料にてターゲットを変え年 3 回実施します。</p> <p>④ エコ生活講座 内容を変えて毎月実施します。</p> <p>⑤ 科学実験 夏休み期間を中心に年 6 回実施します。</p> <p>⑥ 風呂敷講 環境学習サポーターと協働で年 6 回実施します。</p> <p>⑦ エコツアー・グリーンマップ 年 6 回実施します。</p> <p>⑧ 青空学 公害資料を整理・公開することや、公害に関する座学実施などを継続する。また、証言収集も継続し、映像資料を制作します。</p> <p>⑨ 月替わりお手軽工作 内容を変えて毎月 2 回実施します。</p> <p>⑩ 幼児・親子向け講座 環境おはなし会や絵本カーニバルを実施するとともに、キッズスペースを実施します。</p> <p>⑪ 短編映画制作・上映 東田シネマを継続するとともに、青空</p>	<p>① 未来ホタルデー11,007名、ちょいエコホリデー3回合計 4,405名 総計 15,412名を集客しました。</p> <p>② 対象を変えて 14 回実施しました。</p> <p>③ 紙すき、古布ぞうりづくりなど 37 回実施しました。</p> <p>④ 石けん講座、ハーブ講座、草木染めなど 12 回実施しました。</p> <p>⑤ 水のおもしろ実験、電磁石工作、電気パン など、10 回実施しました。</p> <p>⑥ 出張講座や包み方の展示含め 6 回実施しました。</p> <p>⑦ エコツアー3 回、グリーンマップ 3 回実施しました。</p> <p>⑧ 館長を座長とした公開講座の実施や北九州市立大学との協働研究として、公害が激しかった当時のヒアリング調査を実施・記録した。記録はアーカイブ化しており、編集が完了次第公開します。</p> <p>⑨ 左記の通り実施しました。</p> <p>⑩ 左記の通り実施しました。</p> <p>⑪ 毎月、東田シネマを実施した。この際に青空学について紹介を行いました。</p>

<p>学と連動した蓄積した映像やインタビューをこの場で公開する。</p> <p>⑫ ガイド講座 年長者大学の講義にて実施した「伝える技術講座」を一般向けに実施します。</p> <p>⑬ こども環境リーダー等 夏休み期間中に実施します。</p> <p>⑭ 参加者との協働菜園、グリーンカーテン 参加者と共に育てた植物で染色する講座や料理講座、エコハウスでのグリーンカーテンの共同製作を実施します。</p> <p>⑮ ナイトミュージアム 星空のまち・あおぞらの町北九州 ～ドームシアターでプラネタリウムを見よう～を実施します。</p> <p>⑯ オリジナル商品の開発 エコグッズの販売を行います。</p> <p>⑰ 書籍「まちのインタープリター」出版 編集および初版を作成します。</p> <p>⑱ 環境人材育成講座 環境ビジネス講座、国際理解・異文化交流企画を実施する。また、環境学習サポーターや観光ボランティアとの情報を共有する機会を設けます</p> <p>⑲ 環境みらい学習システム推進関連環境ミュージアムにおける環境コンシェルジュ機能および、環境情報の発信を行います。</p> <p>⑳ 東田地域連との連携 地域住民・商業施設等、東田地域との連携をさらに深め、集客につなげます。</p>	<p>した。</p> <p>⑫ 年長者大学での講義の一環として実施した。 また、職場体験、インターン受け入れの際にも同様に実施しました。</p> <p>⑬ 小学生 4 年生以上を多少に大藏川の水性生物調査を実施しました。この際、ガールスカウト協同で実施しました。</p> <p>⑭ 染物講座やハーブ講座参加者との協働でイベントで使用する植物を生育した。また、エコハウスではオカワカメやパッションフルーツによるグリーンカーテンを作成しました。</p> <p>⑮ 予定を変更し、世界一行きたい科学広場の企画として実施しました。</p> <p>⑯ エコライフかがやきアート展での対象作品をプリントしたエコバッグを販売しました。</p> <p>⑰ 初稿の内容の見直しを行い、次年度より販売できるよう準備しました。</p> <p>⑱ 青年海外協力隊員の派遣前研修や料理を通じて国際交流について学ぶ研修を実施しました。また、観光ボランティアと環境学習サポートとの交流の場を設定し、意見交換会を実施しました。</p> <p>⑲ 環境学習の相談窓口として対応しました。その他、バスツアーの実施やタブロイド紙の発行、ドコエコHPの管理、積極的なSNSでの情報発信などを行いました。</p> <p>⑳ 3館での出張イベントの実施のほか、ウォークラリー形式での団体見学に対応できるよう連携を図ったほか、イオン八幡東内での東田 3 館 PR など、東田地域として集客できるようPRを行いました。</p>
---	---



<p>②① Pepper 導入        パーソナルロボット「<i>Pepper</i>」を導入し、来館者と環境についてインタラクティブなコミュニケーションを実施します。</p> <p>②② エコライフかがやきアート展        障害のある人たちに「環境」をテーマとした作品を描いてもらいアートを通じて市民に啓発します。</p>	<p>②① 館内マップだけでなく、イベント案内や周辺情報の照会、ゲームなど、さまざまなアプリケーションを導入することにより固いと思われがちな市施設のイメージを払拭するアイスブレイクとして使用しました。</p> <p>②② 北九州市身体者障害福祉協会との協同で環境をテーマにした絵画コンクールを実施した。78 作品の応募があり、大賞および上位入賞者はエコライフステージにて表彰を行いました。</p>
--	--